

看護ひろしま

広島県看護協会報

2020
September
No.233

9

助産師出向支援導入事業について

特定行為研修修了者の活動
私の防災だより
リスクマネージャー意見交換会

第25回 ひろしまナイチンゲール表彰
助産師職能委員会 活動報告

研修会レポート
摂食嚥下障害のある人の看護ケア
支部活動報告～広島西、広島北、三次・庄原

公益社団法人 広島県看護協会研修受講時の
新型コロナウイルス感染症対策についてのご願い
看護生涯教育・研究センターからのご案内

助産師出向支援導入事業について

(公社)広島県看護協会事務局事業部

「助産師出向支援導入事業」は平成25年・26年に厚生労働省の看護職員確保対策特別事業として日本看護協会がモデル事業を実施し、助産師出向支援導入ガイドラインを策定後、平成27年からは都道府県を対象として現在も事業補助が実施されています。広島県では、平成28年から事業を立ち上げ、本会が委託を受けて実施しています。

助産師出向とは？

助産師出向とは、現在の勤務先の身分を有しながら、他施設で助産師として働くものであり、助産師の就業先の偏在に係る実態調査や出向・受入れを実施することにより、「地域における助産師の偏在是正」「助産実践能力の強化支援」及び「助産学生の実習施設の確保」を目的としています。

平成28年度から令和元年度までの出向状況

出向年度	出向者数	出向元	出向先	目的	期間
平成28年	1名	総合病院	診療所	助産実践能力の向上	2ヶ月
平成29年	1名	総合病院	診療所	助産実践能力の向上	2ヶ月
平成29年	1名	診療所	総合病院	ハイリスク分娩の経験	2ヶ月
平成30年	1名	総合病院	診療所	助産実践能力の向上	2ヶ月
平成30年	1名	総合病院	総合病院	新人の助産実践能力の向上	6ヵ月
平成31年	1名	総合病院	診療所	助産実践能力の向上	2ヶ月
平成31年	3名	開業助産師	総合病院	地域における開業助産師の実践能力強化支援	1日
令和元年	2名	総合病院	診療所	育児休暇明けの実践能力の向上	各1ヶ月
令和元年	1名	総合病院	総合病院	新人の助産実践能力の向上	2ヶ月

出向報告会の開催

令和元年11月18日、報告会を開催しました。

平成29年度、平成30年度の出向助産師、出向元施設、受入れ施設の管理者からの報告をして頂きました。出向者からは、自施設では経験できなかったことが経験でき助産実践能力の向上になった、受入れ施設では出向者を受入れることで、指導方法の見直しの機会となった、管理者からは出向後の成長や部署での学びも見られたことなどがありました。また、お互いの施設の情報交換もでき双方のスキルアップを図る機会となり、貴重な学びとなりました。







今回の報告会では、出向施設以外の施設の方の参加もあり、助産師出向について知っていただくよい機会となりました。

今回の報告会では、出向施設以外の施設の方の参加もあり、助産師出向について知っていただくよい機会となりました。

第25回 ひろしまナイチンゲール賞(知事表彰)表彰式開催

令和2年7月17日に第25回ひろしまナイチンゲール賞(知事表彰)が広島県庁で行われました。

受賞者の方々

-  いしだ ゆりこ
石田 百合子 様 (看護師) (前列左端)
-  うえだ きくこ
植田 喜久子 様 (看護師) (後列左端)
-  やまぐち やすこ
山口 保子 様 (看護師) (前列右端)
-  すがはら まちこ
菅原 真知子 様 (看護師・助産師) (後列右端)



支部活動報告

広島西支部

感染拡大に注意して活動を!

広島西支部長 奥平 敦子 (医療法人光仁会 梶川病院)



当支部は広島市西区と佐伯区からなり、地域住民とのつながりが強く、区民まつりや佐伯区市民公開講座、西区防災訓練等の関連職種地域連携事業が活発に行われます。今年度は新型コロナウイルス感染症対策で中止となっています。支部活動では前年度に開催した看護研究発表会が好評で7月4日(土)に4施設に研究サポート研修を行いました。11月に感染管理の研修会を企画中で、2月の研究発表会と共に感染対策をして開催したいと思います。

広島北支部

「看護フォーラム」の開催

広島北支部長 谷川 裕子 (広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院)

1月25日(土)看護研究発表会後に、看護フォーラムを開催しました。グループホーム・小規模多機能・サービス付き高齢者向け住宅の管理者を講師に迎え、施設の紹介と役割についてシンポジウム形式で研修を行い、51名の参加がありました。アンケート結果から、「施設の特徴や、在宅サービスを知ることができた」「退院支援や退院調整に役立つ内容であった」などの声がありました。今後も、地域の多職種と連携を取りながら研修会を計画していきます。



三次・庄原支部

研究サポート事業

三次・庄原支部長 野田 宏美 (市立三次中央病院)

支部での研究サポート事業は、看護職の質向上やモチベーションアップに大きな意味を持っています。

令和元年度のサポート演題は2題で、県立広島大学の伊藤良子先生に支援を頂き、2月8日に一般演題3題を含め5題の研究発表会を実施する事が出来ました。今回は68名の参加者があり、「心不全患者によるもの」「骨粗鬆症の転倒転落リスクについて」等各施設共通のテーマであり、参加者からの活発な意見交換となりました。

今年度は、6月27日サポート事業を開始する事が出来ました。

特定行為による 看護の広がり



日本鋼管福山病院 入退院支援室・地域連携室 室長
糖尿病看護認定看護師 岡崎 真由美

2010年に糖尿病看護認定看護師の資格を取得しました。活動中にインスリンの相談を受けることが多く、患者さんの生活を細かく把握している私だから調整できることがあるかもしれないと思い、特定行為研修を受講しました。

現在は「1.専門医と協働して週3回の特定看護外来実施」「2.インスリンポンプの患者さんの第一相談窓口」「3.訪問看護を受けている当院の患者さんのインスリン調整」「4.整形外科で入院中の他院でインスリン治療を受けている患者さんの周術期も含めたインスリン調整の業務」が主になります。整形外科の患者さんは主治医から手順書が発行され、訪問看護師からは「看護師同士だから連携しやすい」と評価をもらっています。

「特定行為ができる」ことに注目されがちですが「特定行為が必要か判断できる」能力が大きいと思います。研修中の気付きは「認定の活動で自分の分野に偏った見方をしていた」ことでした。特定行為研修の受講で知識が増えたことはもちろんですが、事象を俯瞰することができるようになりました。

今後は院内に留まらず、糖尿病患者さんが住み慣れた地域で生活できるように支える活動を目標にしたいと思います。

口から食べ続けるための 地域連携を目指して



地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立安佐市民病院
摂食・嚥下障害看護認定看護師 主任看護師 杉本 みほ

当院には、脳血管疾患や誤嚥性肺炎等により、「口から食べる」ことが難しくなられた患者さんが多く入院されています。私は2010年に摂食・嚥下障害看護認定看護師となりました。NST・嚥下チームに所属し、多職種と協働しながら再び口から食べる機能を取り戻していただくことを目指し、嚥下評価や嚥下訓練を実施しています。口から食べない弊害として、低栄養や脱水があります。それらは、嚥下機能のさらなる悪化につながります。2019年9月に特定行為研修を修了し、「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」と「脱水症状に対する輸液による補正」の2行為が行えるようになりました。特定行為研修修了後は、嚥下訓練と並行して、医師の包括的指示のもと、脱水の補正や高カロリー輸液の調整を行うことが出来るようになりました。「口から食べること」は、生きていくためにとても重要で、喜びや楽しみにも繋がります。在院日数が短縮し、病院完結型から地域完結型へと移行する中で、今後は、嚥下障害の再発予防やACPに寄り添いながら、施設や自宅等へ退院後訪問ができるネットワークを作り、地域の皆様と連携して、継続的な支援をさせていただきたいと考えています。

困っていませんか？医療安全対策

～リスクマネジャー意見交換会やってます～

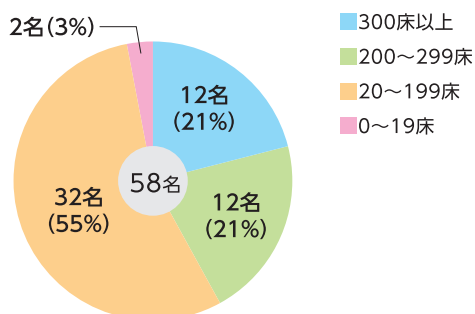
社会経済福祉委員会 畠山 文香（中国電力株式会社 中電病院 医療安全管理者）

医療安全対策の推進を目的に、平成25年度からリスクマネジャーの育成とネットワークづくりの場として「リスクマネジャー意見交換会」を年に2回開催しています。現在では各施設の「医療安全管理者またはそれに準ずる者」を対象に、医療安全活動に必要な知識・技術を学びながら、参加者同士が自施設の活動を共有し、困っていることや課題へ

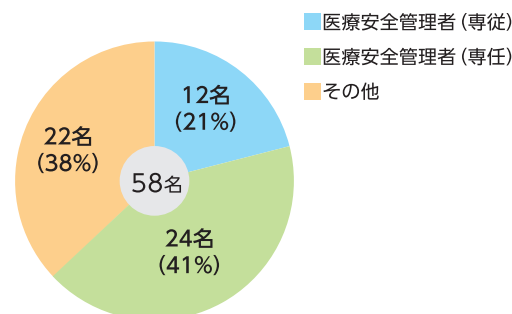
の取り組み方などのヒントを得てもらう場となっています。

令和2年1月16日に「組織で取り組む転倒転落防止」のテーマで開催したリスクマネジャー意見交換会の参加者の内訳とアンケート結果の一部を紹介します。(N=58)

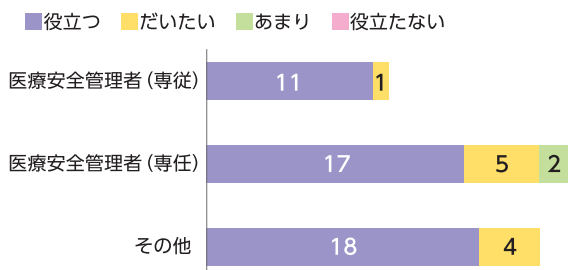
▶参加者の内訳(病床数別)



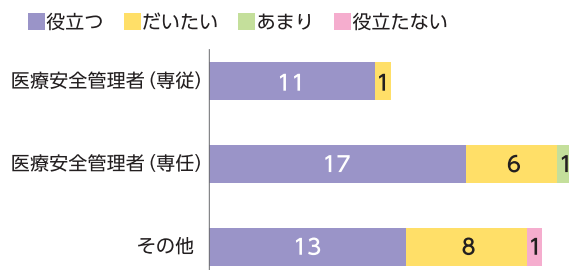
▶参加者の内訳(施設での役割)



▶実践に役立つ



▶参加者の交流に役立つ



参加者を見ていただくと、リスクマネジャーだけでなく所属部署の医療安全に携わる役割の方なども多く参加されています。

社会経済福祉委員会では、参加者の意見交換が

活発になるよう、また活動のヒントを得ることができるよう施設規模や参加者の役割ができるだけ共通するメンバーでグループを組んでいます。ご興味のある方は、ぜひ参加してみてください。

医療安全推進週間について

期間 令和2年11月22日(日)～11月28日(土)

厚生労働省は、「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動」と「国民の理解と認識を深める」ことを目的とし、毎年11月25日(いい医療に向かってGO)を含む期間を医療安全推進週間と定めています。広島県看護協会も各施設に啓発ポスターを配布し、医療安全推進週間活動に取り組んでいます。



助産師職能委員会の活動紹介

助産師職能委員会 三浦 満 (医療法人あかね会 土谷総合病院)

広島県看護協会助産師職能委員会(以下、委員会)は、助産師の資質向上とネットワークの構築を図ることを目的とし、助産外来・院内助産に携わる助産師の資質向上と人材育成の支援、「国際助産師の日」を通じ県民へ助産師活動の理解を深めること、三職能の連携推進を図ることを中心に活動しています。主な活動は2回／年の助産師職能研究会及び「国際助産師の日」の記念行事を企画・運営です。

4月号でも紹介しましたが、今年は「助産実践能

力習熟段階(クリニカルラダー)レベルⅢ認証制度」の初めての更新申請の年であります。しかし、新型コロナウイルス感染症への対応から申請準備に苦慮しているという情報があり、認証新規・更新申請等の日程変更及び申請要件も変更されています。日本助産師評価機構のHPで詳細を確認し申請準備をすすめてください。

委員会では皆様からのご意見、研究会・研修会への参加をお待ちしております。

研修会レポート

摂食嚥下障害のある人の看護ケア



講師の坂田先生

7月22日(水)に、広島県看護協会で開催された研修会「摂食嚥下障害のある人の看護」が、広島記念病院の摂食・嚥下障害看護認定看護師である坂田温子先生を講師に迎え、開催されました。

摂食嚥下障害の病態を理解し、その評価方法、摂食嚥下訓練法のケアを学ぶという目的で講義が進められていき、5期モデルに沿いながら丁寧に説明されました。

広報委員会 相原 裕子 (医療法人緑風会 ほうゆう病院 看護師)

動画や自分で喉・頸部を触りながら嚥下状態の確認をしたり、午後からはとろみ調整食品を使用して実際に飲み物にとろみを付けて味わってみる演習もありました。

摂食嚥下障害は食べることでリスク、食べないことでのリスク、両方を考えながらリスク管理をしていかなければなりません。多職種と連携を図りながら、患者さん個々の目標に向かって介入することが大切になってきます。

食は人を良くすると書きます。食べることで患者さんやご家族が笑顔になれるように、食事の支援を行っていくことの重要性を感じる研修会となりました。



ソーシャルディスタンスを保ちながら開催された研修会

私の防災だより

マツダ株式会社 マツダ病院災害支援ナース
石川 雅子・児玉 広太・西元 一貴・百田 美織

当院での災害支援ナースの取り組み



当院は災害支援ナースが14名在籍し、2ヶ月に1回ミーティングを実施しています。その目的は災害発生時の活動は勿論ですが、平時の取り組みも重要であると考えているからです。年2回防災訓練での病棟スタッフへの教育をはじめ、多数傷病者受け入れ訓練や、日本看護協会主催の派遣合同訓練に参加し、研鑽を積み重ねています。特に多数傷病者訓練では、府中消防及びマツダ本社と共同で、より実践に近い形で訓練を実施しました。訓練後には、現状の問題を提起し、災害発生時円滑に活動できるようシステムの再構築を行いました。また、西日本豪雨災害では当院から10名が避難所へ派遣されましたが、平時の活動の積み重ねが、この支援活動でも生かすことが出来ました。



多数傷病者訓練の様子



LINEでの情報共有



LINEの情報共有

当院では3年ほど前より災害支援ナース同士の緊急連絡にスマートフォンアプリのLINEを活用するようになりました。それまでは電話連絡での情報伝達手段をとっていましたが、LINEを活用し画像や動画を共有することで、リアルで信憑性の高い情報を瞬時に全員が得ることができるようになりました。実際に西日本豪雨災害でグループLINEを活用しました。早期に災害状況の把握だけでなく、派遣先の状況のある程度イメージすることができ、派遣に対する心構えができました。

ワンポイントアドバイス



日本は災害大国であり、今年も全国各地で水害が発生しています。中でも広島県は山を切り開いた場所や河川が多く、雨や地震による災害が起こりやすい場所です。ご家庭でもハザードマップを活用し、起こり得る災害を予測して災害に備えておきましょう。自宅や外出先での非常口の位置、消火器の確認も行うことが大切です。自分が被災してしまっは看護師として活動することができません。私たちは色々な備えを各自で実践しています。『自分の身は自分で守る』を合言葉に防災意識を高めましょう!

災害支援ナースの自宅での備蓄品



公益社団法人 広島県看護協会 研修受講時の新型コロナウイルス感染症対策についてお願い

研修 受講者様へ

研修受講でご来館の皆様、感染対策についてのご協力をお願いいたします。
来館時の健康状態によっては入館をお断りする場合があります。
来館までに下記の内容をご確認いただき、受講くださいますようお願いいたします。

1 研修受講をお断りする場合

研修受講日2週間前から前日までに感染確定となった場合、または、発熱、咳や鼻水、倦怠感、息苦しさ、嗅覚・味覚障害などの症状や体調不良があった場合は、受講を取りやめていただきます。
また研修当日、上記の症状がある場合は、受講を取りやめていただきます。

2 受講者へのお願い

- 1) 所属施設の「施設外の研修受講」などの方針に従い、研修参加を決定してください。
- 2) 研修受講の際は、各自で健康チェックを実施してください。
- 3) 来館の際は、マスクを着用(持参)してください。
- 4) 来館時に検温を行います。
- 5) 各研修室の入口に消毒用アルコールを設置いたしますのでご利用ください。
- 6) 研修当日、発熱、咳などの症状がある場合は、体調を最優先し、受講をお控えください。
- 7) 人と人との間隔は最低1m～2m以上確保し、研修中は座席を指定します。
また密接した状態での会話等を控えてください。(休憩・昼食時間)
- 8) 着席後、「入館確認書」の記入・提出にご協力ください。
- 9) 換気のため、研修室の扉は開放いたします。また定期的に2方向の窓を開放し換気をします。
- 10) 衣服等で寒暖調整をしてください。(部屋の換気を定期的に行うため)
- 11) 講義、演習方法等、当初の予定が変更される場合があります。予めご了承ください。

3 研修開催中止の連絡

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況により、緊急事態宣言の発令や本会の職員、受講者等の感染があった場合、研修を中止することがあります。その際は緊急連絡先への電話および広島県看護協会ホームページよりお知らせします。最新情報をご確認の上、ご来館ください。

問い合わせ先

(公社)広島県看護協会

継続教育部 082-503-2381
認定教育部 082-503-2382
事業部 082-503-2383

看護生涯教育・研究センターからのご案内

申込の前に…!

① 会員証(会員の方のみ)をご準備ください

広島県看護協会と日本看護協会、両方の会員番号の入力が必要です。

※ **キャリアナース**にご登録いただくと、会員証(プラスチック版)が手元になくても会員番号は確認できます。

「キャリアナース」のユーザー登録には、看護職の免許番号が必要です。



←キャリアナースのQRコード

② 申込用のメールアドレスをお決めください

申込完了メールが届きます。

※「@nurse-hiroshima.or.jp」が受信できるように設定してからお申込みください。

WEB申込の際に「**払込票送付先(住所)**」の入力不備が発生しております。

「**受講決定通知兼払込取扱票**」は再発行できません。(紛失・宛先不明の場合)入力時の最終画面で申込内容をよくご確認のうえ、お申込みください。



つなぐ～ひろしまの街道 ～表紙の写真／東城道 歌の御堂(神石高原町)

平安時代後期から鎌倉時代初期にかけての歌人である西行法師が、旅の疲れを癒したという御堂と湧水が東城道脇にあります。西行法師がこの場所で休んだ際、「手にむすぶ 岩間の清水 底澄みて行きかふ人の かげも涼しき」という歌を残したので、「歌の清水・御堂」と呼ばれ、現在に伝えられています。この御堂や湧水の様に、様々な病氣と闘いながら治療に励んでおられる患者さんにとって、癒しになれるように日々の看護を頑張っていきたいと思えます。(谷増 えり)

発行所
公益社団法人広島県看護協会
〒730-0803 広島市中区広瀬北町9-2
TEL.(082)293-3362
発行責任者 山本 恭子
編集 広報委員会
制作 有限会社バル